

## &lt;先週の指標の動き&gt;

指標名	数値	コメント
6月チェーンストア売上高 (7/23) 店舗調整後	前年比▲0.5% (▲0.7%)	6月のチェーンストア売上高(店舗調整後)は、前年比▲0.5%と3ヶ月連続の減少。農産品の価格下落で食料品が減少したほか、天候不順により夏物の販売が落ち込んだ衣料品も減少。
6月全国百貨店売上高 (7/23) 店舗調整後	前年比▲0.9% (▲0.8%)	6月の全国百貨店売上高(店舗調整後)は、前年比▲0.9%と3ヶ月連続の減少。平年より気温が低く雨が多かったことや、夏物商材のセールと同時期に台風が到来したことで、集客数が伸び悩み。商品別にみると、貴金属などの高額品や化粧品が堅調に推移した一方、衣料品や食料品の減少幅が拡大。
7月東京都区部消費者物価指数 (7/26) 総合 生鮮食品を除く総合 生鮮食品及びエネルギーを除く総合	前年比+0.9% (＋1.1%) 前年比+0.9% (＋0.9%) 前年比+0.8% (＋0.8%)	7月の東京都区部消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は前年比+0.9%の上昇。前年比でみた原油価格の騰勢鈍化を背景に、電気代や都市ガス代などエネルギーの上昇幅が縮小した一方、新製品が発売された携帯電話機が指数を押し上げ。

※ 〈 〉 は前月の前年比

## &lt;国内景気の現状判断と当面の見通し&gt;

## (1) 国内景気の現状判断

わが国経済は足踏み感。中国向けを中心とした輸出の低迷を背景に、製造業の生産活動は伸び悩み。もっとも、外需に弱さが残るなかでも、内需は底堅く推移。良好な雇用情勢と賃金上昇により、個人消費は緩やかな回復が持続。また、高水準の企業収益を背景に、設備投資も増加基調。

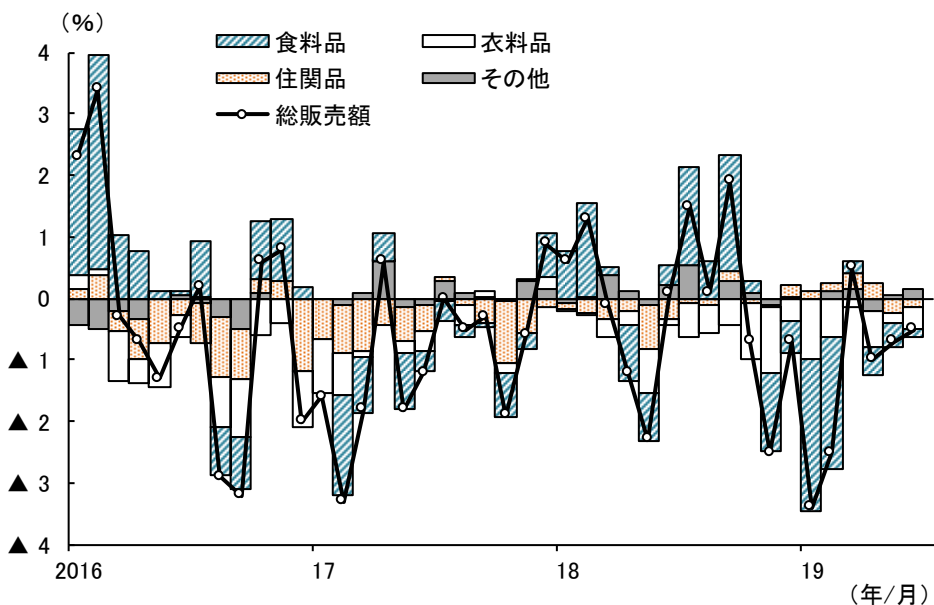
## (2) 当面の見通し

先行きを展望すると、内需の拡大に支えられ、景気は再び回復軌道に復帰する見込み。輸出は、世界経済の成長ペースが緩やかにとどまるなか、力強い回復は期待薄。もっとも、内需に目を向けると、企業の設備投資は、老朽化した設備の更新投資や、人手不足を背景とした省力化・合理化投資など潜在的な需要は依然として強い状況。輸出が伸び悩むなかでも、非製造業を中心に増加基調が続く見込み。一方、個人消費も、良好な所得環境に支えられ、緩やかに増加する見通し。10月には消費税の引き上げが予定されているものの、軽減税率の導入や教育・保育の無償化などの消費増税対策により家計の負担増が緩和されることで、消費の大幅な落ち込みは回避。

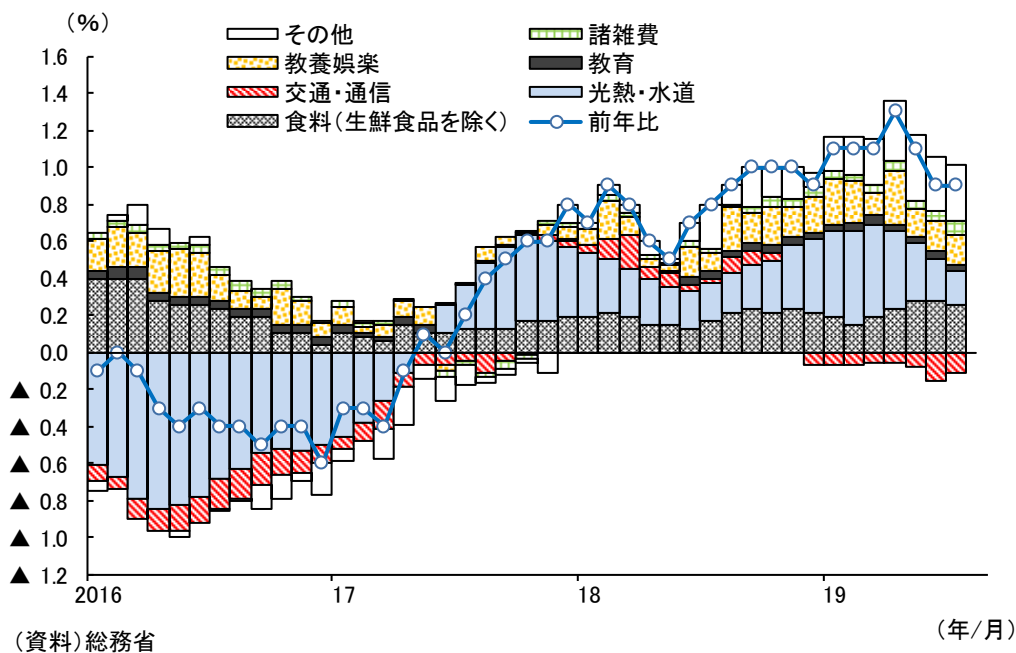
## &lt;当面の国内主要経済指標等のスケジュール&gt;

月日	指標名等	発表機関
7/29 (月)	6月 商業動態統計	経済産業省
7/30 (火)	6月 労働力調査・一般職業紹介状況 6月 鉱工業指数	総務省・厚生労働省 経済産業省
7/31 (水)	6月 住宅着工統計・建築着工統計・建築工事受注	国土交通省
8/1 (木)	7月 新車販売台数	日本自動車販売協会連合会 全国軽自動車協会連合会

(図表1)チェーンストア売上高(前年比)



(図表2)東京都区部 消費者物価指数(生鮮食品を除く総合、前年比)



本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。

